

## キヤノン株式会社

### 2016年12月期 決算説明会【主なQ&A要約】

**Q1. 2017年の見通しには、東芝メディカルシステムズ社(以下TMSC)の売上が4,200億円織り込まれているとのことだが、営業利益についてはどのように見ているのか？**

**A1.** TMSCの数字については、最終的に子会社化した昨年(2016年)の12月19日から経理部門間で情報処理を始めたばかりであるため、十分に詰め切れていないのが現状である。特にのれんと無形固定資産の区分けについては、会計士も交えてまだ精査を進めており、今回は暫定的な数字という形で無形固定資産の償却相当分を利益から調整して織り込むに留まっている。

**Q2. 説明会資料の9ページにおいて、産業機器その他ビジネスユニットの数量増減影響が売上で5,758億円あるが、TMSC、露光装置関連を除いたその他の部分についてはどのように見ているのか？**

**A2.** 具体的な額は開示していないが、その他の部分では主にグループ子会社の産業機器関連とネットワークカメラが主だったものになる。大体1,000億円くらいとなるが、その7~8割がグループ子会社の産業機器、残りがネットワークカメラ関連と言える。

**Q3. 産業機器その他ビジネスユニットは、TMSCや有機EL蒸着装置、FPD露光装置など今年大きく増える想定の中、利益面で大きく増益とならないのはまだ量産試作段階のナノインプリントなどが影響しているのか？**

**A3.** ナノインプリントは光学機器と称しており、露光装置セグメントの中で管理している。その利益は悪化していない。

**Q4. 説明資料の10ページにおいて、レーザープリンターの説明に入る際に、「機能に見合った価格帯となった」とあるが、その背景について補足できないか？**

**A4.** 本体製造におけるコストダウンが十分に進み、価格弾力性が備わったため、以前と比べて普及価格帯で提供できるようになった、買いやすい価格帯におさまった、という意味合いである。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。